



校長室だより

令和4年卯月28日

呉市立宮原中学校

文責 馬屋原美智子

第1号

みんなで頑張ろう

時が流れるのは早いもので、ついこの間始まった令和4年度も、もう一ヶ月が終わってしまいました。明日からはゴールデンウィーク。新型コロナウイルス感染症は未だに落ち着きませんが、昨年よりは移動の範囲が広がる可能性があり、気になるところです。

さて、一昨年度は中止となった体育大会ですが、昨年度は無観客で行いました。練習段階から悩んだり、話し合ったり、意見を出し合ったり、うまく跳べない1年生を3年生が教えたりしながら、かかわりあい、つながりあって当日を迎えました。3つの団に分かれた異学年の生徒たちは、力を出し切り、これまでの練習の成果を発揮しました。そんな風に生徒たちが活動するからこそ、行事は学校生活の大切な部分の一つなのです。

今年度は今のところ、コロナ対策の制限は必要ですが、保護者にも参観していただこうと考えています。生徒たちは既に3つの団になり少しずつ種目等の練習に励んでいます。1人の力は小さいけれど、みんなが合わせれば大きな力になることをこの体育大会で体感してくれることを信じています。

1年生にとっては中学校での初めての行事。しかも部活動と並行しながらの練習で疲れ果てて帰宅していると思います。しかし、そうやって一つ一つを体験、乗り越えて体力もコミュニケーション力もついていくのです。保護者から見たら心配で先回りして守ってやりたくなるようなこともあるかもしれませんが、子どもの力を信じて見守ってやってください。人は誰しも自分が体験したことでは自分の力は培えないものです。上級生や先生方も1年生一人ひとりを見守りながら、時に支援に入ったり声を掛けたりしています。

公立高等学校の入試改革

今日の参観授業では、3学年が公立高等学校の入試改革についてより詳しくお伝えしたところです。彼らが2年生だった3月に呉商業高等学校の校長先生から聞いたお話に加え、各高等学校が出している学力調査・調査書・自己表現の配分が示されました。特色枠で受検するか、一般枠で受検するかによっても違うし、目指す学校によっても違うことがおわかりいただけたと思います。

自己表現だけに注目が集まっていますが、要は目の前の学習を頑張り、力をつけておかなければならないことがはっきりイメージできたのではないのでしょうか。もちろん3年生だけでなく、1・2年生にとってもすぐに自分の身に迫ってくることです。「3年生の成績が3倍だから、1・2年生は・・・」と考えているなら間違いです。1年2年で付けた力の上に3年生の学習がついてくるのですから、基礎を固める1・2年をおろそかにしては、目標に手が届きにくくなることもあります。

どんな将来像を見据え、そのために今何をどう頑張っておけばよいのか……。ゴールデンウィークには家族でもそれを考える機会をもってもらいたいものです。

(1・2年生の保護者の方も入試の詳細をお知りになりたい方は、学校にご一報ください。)